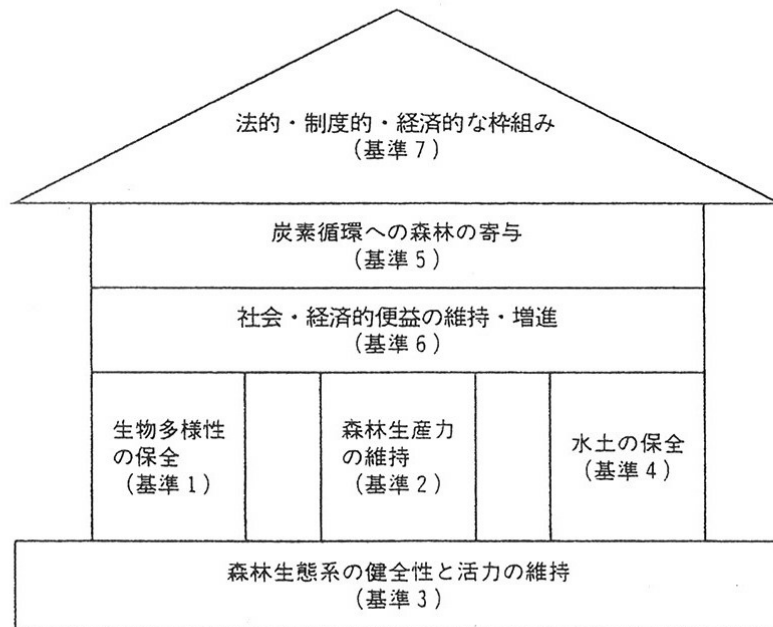


図1 モントリオールプロセスの基準のフレームワーク

1997年に高知で開催された国際シンポジウムでMaini氏が示した図を藤森(2003)が改変



注：元の図では、基準5の位置は柱の右端にあったが、「炭素循環への寄与」は生態系だけでなく、木材の利用も通して行われるので、それを基準6の上の梁、桁の部分に置いた。

## 現代のサービスの重要性

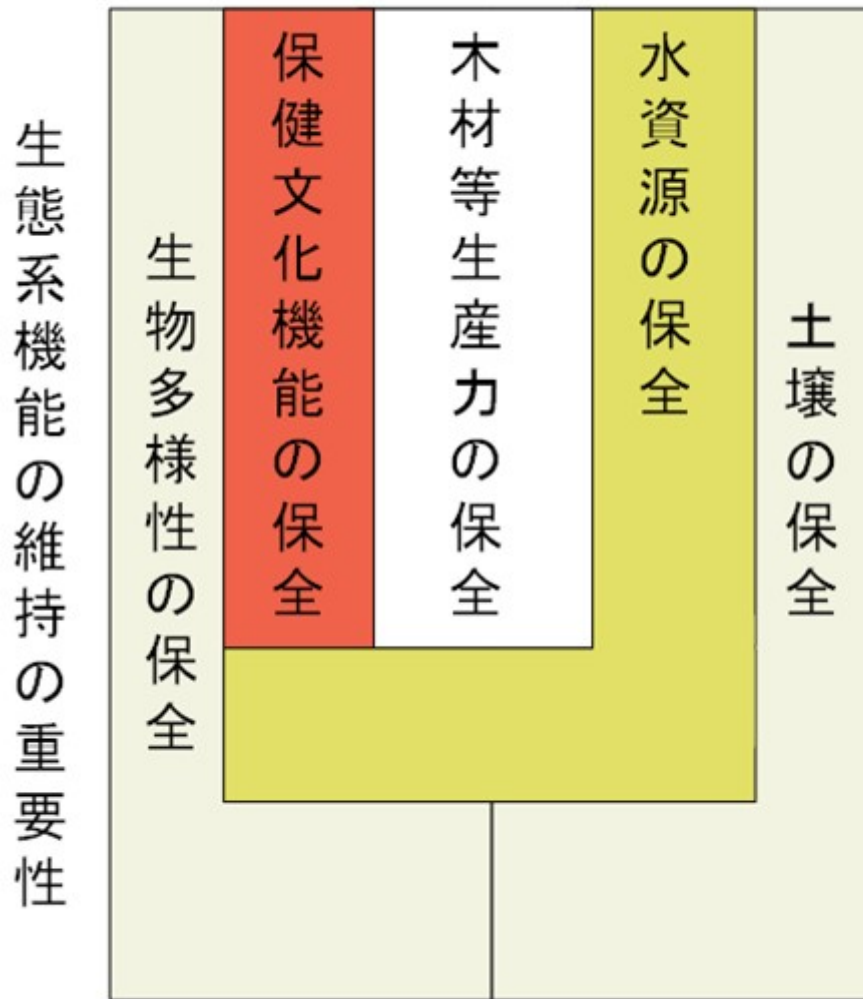
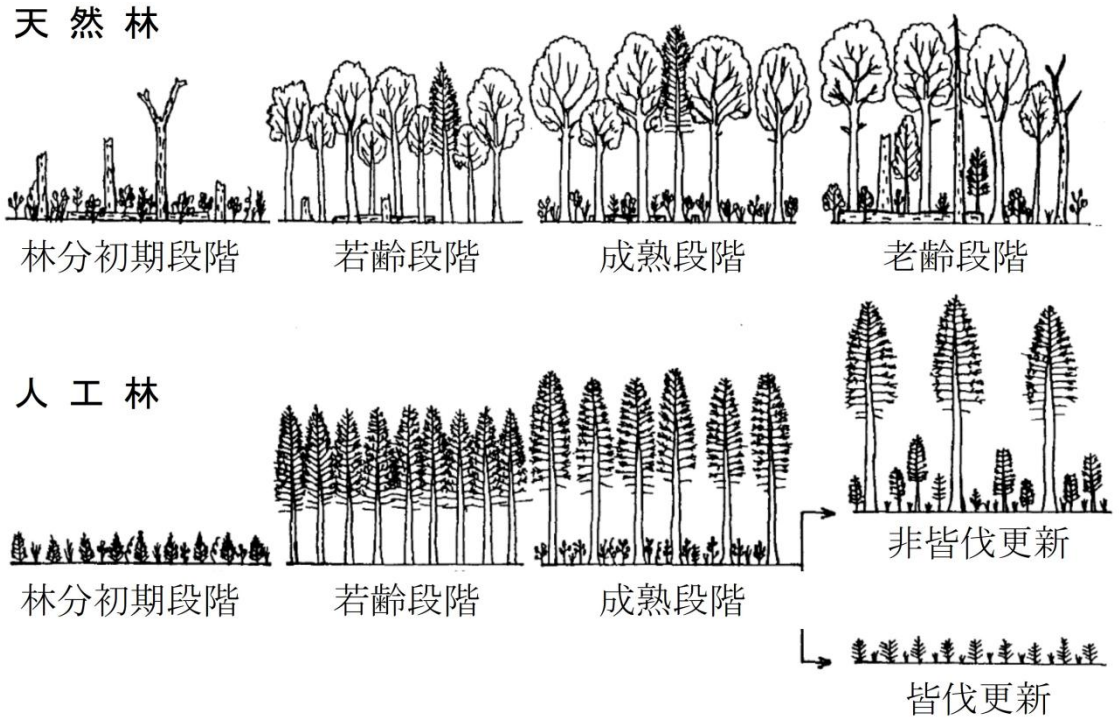


図2 生態系の機能の重要性と生態系サービスの重要性の (Fujimori, 2001)  
水平方向の相対的長さは、人間の要求を満たす現在のサービスの重要性を示す。  
垂直方向の相対的な長さは、未来に向けた潜在力を保つ支持サービスの重要性和、基盤的機能の重要性を示す。

図3 森林（林分）の発達段階の模式図



注: Oliver (1981) と Franklin and Hemstrom (1981) を参考の基本にして、藤森ら (1979)、真部ら (1979) の資料と清野 (1990) の報告を参考に加えて描いた。

出典: 藤森隆郎、森林科学 21、1991年

図4 森林（林分）の発達段階に応じた機能の変化

(藤森、2001 を一部修正)

